

13 世田谷区 狭隘道路による交通困難地区へのコミュニティバス運行(試行)

メンバー

実施者：トヨタモビリティ東京株式会社
 連携団体：世田谷区、MONET Technologies

活動目的

- 世田谷区と協力し、デマンド型コミュニティバスを運行することで
 - ▶区民の外出機会の創出、▶病院等への定期往訪による健康寿命の長期化を促進。
- 世田谷区内の地域企業と連携し、地域の利便性向上・活性化を図る。

世田谷区：人口917,145人 高齢化率18.6%



活動実績：デマンド型コミュニティバス…外出支援ワゴン&通勤支援ワゴンの運行（20年11月から21年8月までの実施実験）

実施概要	実施地域と主な利用者	世田谷区喜多見1～7丁目・宇奈根1～3丁目の居住の会員。※利用者の72.1%がリピーター。		
	外出支援ワゴン	主な目的地	玉川高島屋、OKストア成城、京王ストア、サミット成城、ウェルパーク、多摩川病院、関東中央病院等	
		主な目的地	「下宿バス停」「永安寺前バス停」「鎌田バス停」※各バス停からは路線バス利用	
	通勤支援ワゴン	主な目的地	「下宿バス停」「永安寺前バス停」「鎌田バス停」※各バス停からは路線バス利用	
	運賃	無償		

達成目標と実績 ※事業全体	目標項目	1年後の目標(21/8月末)	実績	目標と実績の差の理由
	世田谷区民の移動手段確保	利用者：20名/日	15	21年2月頃まで10ヶ月で利用少

事業で得た地域との関わり・知見

地域との関わり	1) 地域コミュニケーションづくり	▶世田谷区を通じて住民とのパイプができ、対話が実現。※ドライバー(弊社社員)と地域住民のコミュニケーションが図れ、取組みの地域浸透が進む。
	2) 認知状況と受け入れ状況	▶サービスの利用満足度は高く、ニーズと合致していると認識(アンケート調査より) ※運行時間及び曜日の拡張要望あり。
	3) 利用者満足度調査の実施状況	▶利用者アンケートで路線バス同等の金額が料金の許容範囲を把握：平均利用回数は10回/月
	4) 本事業の効果	▶交通不便地域におけるデマンド型移動支援ニーズが顕在化。高齢者だけでなく幅広い年代(子育て世代など)の利用ニーズを確認。

本事業を通じて得た知見	1) 導入方法実験手法の評価	▶地域に根差した店舗を目指すために、利用者とのコミュニケーションの取れる移動支援サービスは効果的。 ※課題…成功には自治体の後押し、もしくは緑ナンバーとしての事業化が必要。
-------------	----------------	---

事業継続について

事業終了	▶同地区では、既存コミュニティバス路線を再編し、バス事業者によるオンデマンド化を検討
------	--